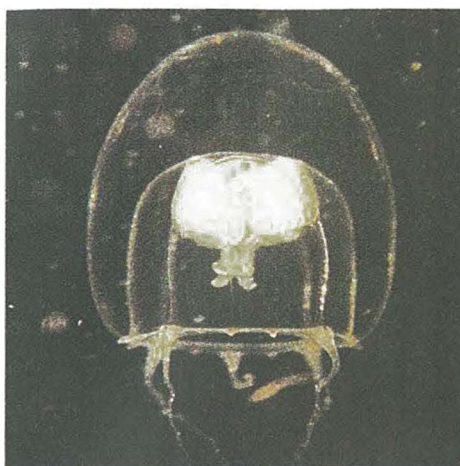


イカリヨツボシクラゲ



胃腔にある4カ所に黒い点特徴のイカリヨツボシクラゲ

久保田 信

33

この小さなヒドロクラゲは日本各地であまり採れていない珍しいイカリヨツボシクラゲだ。田辺湾でもめったとお目にかかれない。しかし、新種として世に知られたのは古く、1927年、私の恩師の

新種記載の基になった個体は傘の直径が4・2ミで、8本の触手を持っている。傘の縁には全部で12個の小さな膨らみがある。それらのすべて

の外側には目が1個ずつある。小さい方の個体は傘の直径が2・2ミだが、同じく8本の触手を持っている。傘の周りの小さな膨らみは8個しかないが、ほぼ同じ形態だ。触手瘤(りゅう)やすべての傘の縁に規則正しくある膨らみに目があるのも同じだ。

今年8月23日に田辺湾の奥で採れた画像の個体も、よく特徴が現れている。傘の直径は2・74ミで、まだ触手が4本しかないが、もう1本が伸び始めている。傘の周りの小さな膨らみは11個ある。まだ少し未成熟なのだろう。口唇はいずれも十字で単純な形をしている。胃腔(いこう)からは4本の放射管が十字に走り、胃腔の4カ所に黒い点が1個ずつあるのも特徴で「ヨツボシ」の名の通りだ。

このクラゲはこれまで諸外国の熱帯で記録されている。タイやフィリピン産は別種とされたが、後に本種と同種として取り扱われるようになった。ニュージーランドでも採られている。よく成長したポリプは残念ながらまだ分かっていない。(京都大学准教授)



そのまた師匠である内田亨先生による。

24(大正13)年10月、当時の京都大学瀬戸臨海実験所に勤務されていた井狩次郎さんによって採集された2個体を基に記載された。新種の名前(種小名)にはイカリイとあり、井狩さんに献名している。和名も同じゆえんだが、これは2007年に私が名付けた。

今年8月23日に田辺湾の奥で採れた画像の個体も、よく特徴が現れている。傘の直径は2・74ミで、まだ触手が4本しかないが、もう1本が伸び始めている。傘の周りの小さな膨らみは11個ある。まだ少し未成熟なのだろう。口唇はいずれも十字で単純な形をしている。胃腔(いこう)からは4本の放射管が十字に走り、胃腔の4カ所に黒い点が1個ずつあるのも特徴で「ヨツボシ」の名の通りだ。